

【職域部門】 奈良少年刑務所

《明治から平成へ 近代行刑のシンボルから先進の矯正処遇へ》

| 名称・所在地・代表者・沿革等 | 組織の概要等 |
|--|--|
| <p>法務省 奈良少年刑務所</p> <p>奈良県奈良市般若寺町18番地</p> <p>所長 <small>みやち しげみつ</small> 宮地 重光</p> <p>職員数 所長以下203名（支所含む）</p> <p>明治 4年 奈良監獄として奈良町大字西笹鉾町に発足</p> <p>明治41年 明治新政府の監獄改良の一環として、鹿児島、長崎、金沢、千葉の各監獄と同時期に、現在地に改築移転</p> <p>大正11年 奈良刑務所と改称</p> <p>昭和21年 奈良少年刑務所と改称</p> <p>昭和29年 奈良県立奈良高等学校通信制課程（現在は奈良県立大和中央高等学校通信制課程）開始 理容科職業訓練開始</p> <p>昭和39年 総合職業訓練施設に指定</p> <p>平成20年 奈良少年刑務所創立100周年</p> | <p>奈良少年刑務所は、明治4年に奈良監獄として発足し、明治34年に明治政府の監獄建築改良方針に基づき建築が計画され、同41年に五大近代監獄の一つとして現在地に竣工された。</p> <p>同所は昭和21年に少年刑務所と改称されて以降、主に犯罪傾向の進んでいない26歳未満の受刑者（YA指標）や20歳未満の少年受刑者（JA指標）を収容する全国でも四つしかない若年の初犯受刑者を収容する少年刑務所の一つとして、受刑者の改善更生と社会復帰に向けた矯正処遇を積極的に展開してきた。取り分け、矯正教育や職業訓練において先進的な取り組みを多々実施しており、全国の刑事施設を牽引してきた歴史を持つ。</p> <p>なお、建物の老朽化に伴い平成28年度末をもって廃止となり、長いその歴史に幕を下ろすこととなっている。</p> |

顕彰理由

奈良少年刑務所は全国で四つしかない若年の初犯受刑者収容施設の一つとして、受刑者の改善更生に向け、昭和22年の受刑者自治制の導入、昭和23年の仮釈放前受刑者のための寮の運営開始、昭和29年の高等学校通信制課程や職業訓練の開始など先進的取組を行い、昭和39年には総合職業訓練実施施設に指定され、平成18年の監獄法全面改正後は、性犯罪再犯防止指導の推進基幹施設に位置付けられ、今日まで再犯防止施策を牽引する役割を果たしている。なお、同所は全国の刑務所でも類を見ない明治41年建築の煉瓦造りの建物を適切に管理して文化的価値を維持してきた。

1 先進的な矯正処遇の実施

奈良少年刑務所は、昭和21年8月に戦後の社会秩序の乱れ、経済的困窮などによる少年犯罪の激増に対応するため少年刑務所に位置付けられ、若年の初犯受刑者（YA及びJA指標）を収容する刑務所として昭和22年に全国で唯一「受刑者自治制度」を導入、昭和23年に仮釈放前の受刑者のための名誉寮の運営を開始、受刑者を「生徒」、職員を「先生」と呼ぶなど、早くから大胆な教育的処遇を展開し、現在行われている少年受刑者処遇の基礎の形成上、極めて重要な役割を果たしてきた。

戦後、我が国が急速な経済成長を迎えていたこと等を背景に、若年労働者の需要が高まり、これらに職業的スキル・知能を向上させ、社会復帰させる取組が強く求められていたところ、同所では、昭和29年に奈良県立奈良高等学校通信課程の受講を開始（平成22年度以降、奈良県立大和中央高等学校通信課程）、厚生大臣から職業訓練施設の認可を受け、「若草理容師養成所」を開設、以降、本格的な教育的処遇や職業訓練に取り組んできた。昭和39年には少年刑務所として初めて総合職業訓練施設に指定され、全国から訓練生を募集し、技能の修得と公的資格の取得に努め、社会適応性の養成に努めてきたところ、現在では職業訓練全25種目中14種目（理容科、電気通信設備科、建築科、クリーニング科、介護福祉科、内装施工科、情報処理技術科、ビルハウスクリーニング科、農業科、溶接科、ビジネススキル科、木工科、金属科、印刷科）を実施している。さらに、監獄法が全面的に改正された平成18年以降、新たに開発された特別改善指導の一つである性犯罪再犯防止指導（R3）について、同所が西日本の基幹施設として他施設のモデルとなり、職員の専門性を高め、認知行動療法に基づくプログラムの効果的実施を推進しているほか多様な改善指導プログラムの開発にも努めてきた。また、同所は多数の民間協力者や地域の支援を得て特色のある様々な教育処遇等を展開しており、今なお若年受刑者処遇に工夫と改善を加えつつ発展し続けていることは、刑事政策上の意義が大きい。

2 歴史的・文化的価値の高い建物の維持

同所は、明治初期の監獄改良の流れの中で国家的事業として、欧米各国への建築家の派遣調査を経て建築家山下啓次郎氏により設計され、受刑者の手による直営工事で明治41年に建築された。その後100年以上が経過し、老朽化は著しいものの、職員が深い愛情をもって施設を適切に維持管理してきたことから、建設当時の姿をほぼそのまま残している。同所は文化的・歴史的価値の高さからマスコミや国民の関心を集めるとともに、国民の矯正施設運営に対する理解を深めることにも貢献してきた。

3 公務の信頼の確保・向上

同所が罪を犯した若年受刑者と真摯に向き合い、その罪を償わせると同時に、二度と罪を犯さないよう親身になって指導し、社会復帰させてきたことは我が国の治安維持や青少年の育成に極めて重要な役割を果たしているものである。108年の歴史に幕を下ろすに当たり、長年にわたる同所職員の功績は、公務に対する信頼の確保と向上に大きく寄与したものととして顕彰に値する。

【職域部門】奈良少年刑務所

1 奈良少年刑務所庁舎及び居室棟

明治41年に建築されて以降、100年以上にわたり使用されてきたところ、被収容者を適切に収容する実用性の高さを備える一方、歴史的・文化的価値も高く、矯正行政に対する理解や認知度の向上に大きく貢献してきた。

庁舎正面



居室棟



2 職業訓練

奈良少年刑務所では、設立当初から若年受刑者に先進的な教育的処遇を施しており、昭和39年には少年刑務所として始めて総合職業訓練施設に指定された。現在では、14種目もの多様な職業訓練を実施している。

職業訓練（溶接）



職業訓練（内装施工）



職業訓練（農園）



職業訓練（ビジネススキル）



職業訓練（理容）



職業訓練（電気通信設備）

